

高校の「数学」再編へ

AI の学び重視し A、B、C の区分なくす方向

植松佳香 2025 年 12 月 22 日 5 時 00 分

高校数学から数学 A、B、C という科目の区分がなくなる方向となった。ベクトルや数列などの項目ごとに生徒が選ぶ仕組みに変わる見込み。

また、行列や確率などの基礎的な要素を、必修科目の数学 I に入れることも検討される。AI（人工知能）やデータサイエンスにつながる内容を全員が学ぶようにする狙いがある。

関係者への取材でわかった。文部科学省が、次の学習指導要領を議論している中央教育審議会（文科相の諮問機関）の算数・数学の作業部会で 22 日にも提案する。次の指導要領は、高校では 2032 年度から導入される見込み。

数学 A、B、C をまとめて 1 科目に

数学 I と違い、数学 II や III、数学 A、B、C は選択科目。早期に文系と理系に分かれる高校もあり、数学 B の履修者は 45%、数学 C は 34%と文科省は推計する。

一方、文科省が AI 技術や数理科学、データサイエンスを理解する基礎として重視する内容は、確率が数学 A、統計が数学 B、行列は数学 C などとばらけ、履修しづらいのが現状だ。

そこで、数学 A、B、C をまとめて 1 科目にし、学校や生徒が進路希望や関心に合わせて、学ぶ内容を選ぶ仕組みが想定されている。数学 A、B、C は数学 I、II、III と違って学びの順序性がないため、区分しなくても支障はないとみられている。

数学 I に「社会を読み解く数学」と「数学ガイダンス」

そして、数学 I には「社会を読み解く数学」と「数学ガイダンス」（いずれも仮称）の 2 項目を新設する。

「社会——」は行列や確率などの基礎を実生活の事象と関連づけ、AI やデータサイエンスの学びの入り口とする。

また、生徒の関心を高めるため、「ガイダンス」で数学の学習内容の全体像や社会での活用状況を示す方向でも検討されている。